

新設専門職大学 での オンライン教育への取り組み



田代 秀一	情報学部教授 教務委員会副委員長
土岐 智賀子	事業創造学部講師
福田 稔	事業創造学部准教授
磯西 徹明	情報学部教授

専門職大学

- 2019年4月施行の新しい制度
- 課程修了者には〇〇学士(専門職)の学位を授与する
- 専任教員の4割以上を実務家教員とする
実務家教員：専攻分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者
- 4年間で600時間以上の企業内実習（インターンシップ）が必修
- 1クラス40人以下



開志専門職大学

新潟県新潟市 中央区 紫竹山/米山/古町

- **2020年4月1日 新潟市**に開学
- 事業創造学部 入学定員80名、総定員320名
 - 経営・経済・商学・マーケティング
- 情報学部 入学定員80名、総定員320名
 - AI・IoT・ロボット・サイバーセキュリティ・データサイエンティスト・ゲームアプリ開発
- アニメ・マンガ学部(**2021年4月開設**) 入学定員80名、総定員320名
 - アニメーター・マンガ家・キャラクターデザイナー・イラストレーター・3DCGクリエイター



紫竹山キャンパス
「事業創造学部」



米山キャンパス
「情報学部」



古町キャンパス(2021年4月開設)
「アニメ・マンガ学部」

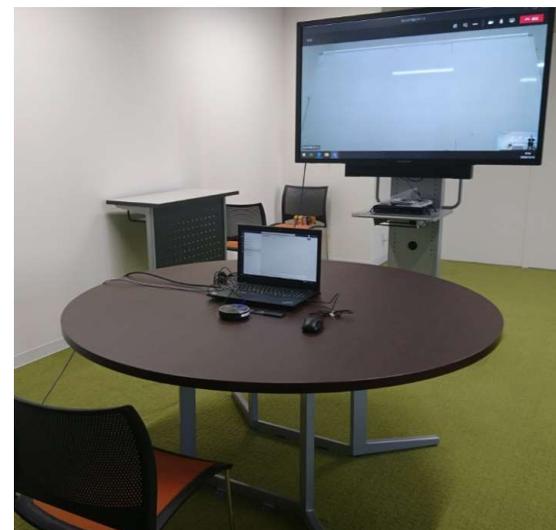
当時の状況

●大学

- 大学敷地への全面立入禁止は適用しなかった
 - > 学生は全面立ち入り禁止
 - > 職員の立ち入りは認められるが、対面による会議は禁止
 - > 職員は大学内から遠隔教育を実施
- 全ての情報環境をクラウド上に構築していた
 - > Office365には遠隔会議システム(Teams)が含まれていた
 - > 実習用のLinux環境等もクラウド上のVMで稼働(情報学部)

●学生

- 全学生にラップトップPCを持たせていた
 - > 遠隔講義の受講
 - > Linux等、実習環境へのアクセス
- 実家、寮から遠隔授業に参加
- 通信環境は概ね良好だったが、一時的に途切れることはしばしばあった
 - > 録画した講義内容を随時再生可能として対応



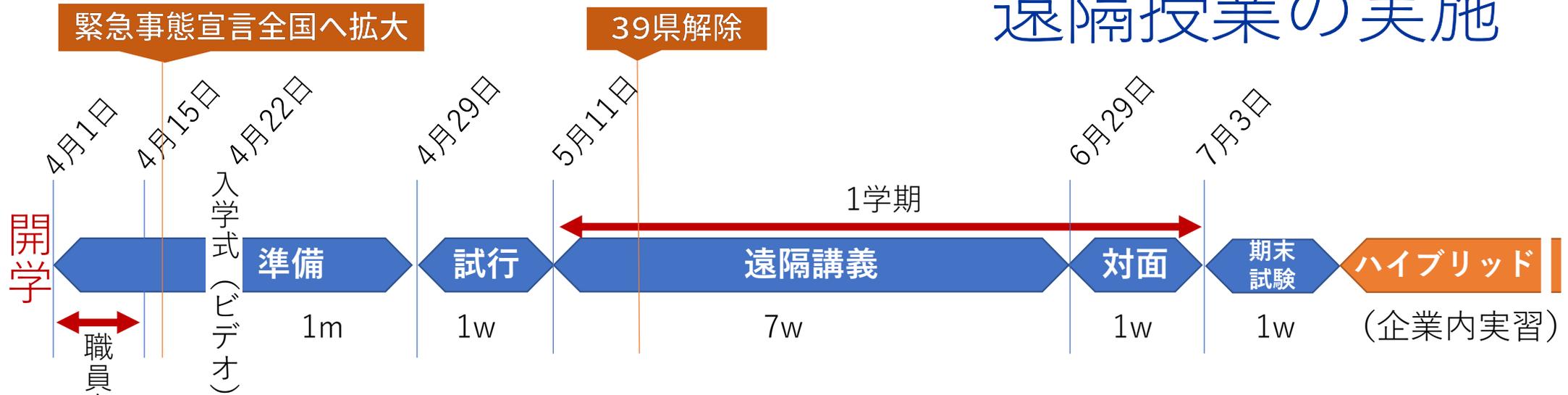
同等の環境を後日再現

遠隔授業開始にあたっての課題

-開学と同時に緊急事態体制下に置かれた-

- 設置計画履行期間（AC期間）であり、認可を受けたシラバス等との整合性が厳しく問われる。
- 専門職大学の特徴である、「企業内実習」を如何に実現するか？
- 大学での指導経験のない「実務家教員」が多かった。
 - オンライン講義の経験を持つ教員はほとんどいなかった。
 - 対面で一同に会したこともない。ほぼすべての打ち合わせがテレビ会議。
- 一人の学生も大学の校舎で授業を受けた経験が無い。
- 学生全員にPCを持たせていたが、居住環境、ネット環境の把握は十分でなかった。

遠隔授業の実施



- 準備：講義方法の検討と周知
 - 学生の居住環境、ネットワーク環境の調査
 - 設置計画履行期間（AC期間）であり、シラバスとの整合性に神経を使った
 - 講義法のビデオ、ノウハウ・注意点等を共有するwebページを構築
 - 講義ノウハウ、文科省通達、著作権問題等、NIIのセミナーから多くの情報を得た
- 試行：学生・教員双方の練習
- 遠隔講義：リアルタイム、双方向型（Microsoft Teams）
- 対面講義：教室内の学生密度を下げる。図書館は予約制。
- 期末試験：結果的に対面で実施できた

更新済みのページ

[ホーム](#)[このライブラリの使用方法](#)

遠隔講義参考資料

[教務サポートHome](#)[ブックマーク](#)[ドキュメント](#)[ページ](#)[ノートブック](#)[サイトコンテンツ](#)[教員向けITツール活用サポート](#)[教員トップサイト](#)[このサイトの編集履歴](#)

最近使った項目

[wiki 遠隔講義参考資料](#)[教務サポートブックマーク](#)[ごみ箱](#)

リンクの編集

遠隔講義に関する資料、事例集

「緊急事態宣言」発令に伴う 今後の対応について, 4月23日 開志専門職大学

緊急事態宣言が5月31日まで延長されたことをふまえ,4月23日付上記文書適用期間をを当面の間延長することとなりました (5月7日事務連絡)

- 遠隔教育を行う際のコツ、注意点 (ビデオ) (後藤幸功 情報学部教授)
 - 遠隔教育でのグループディスカッション事例 (土岐智賀子 事業創造学部講師)
 - Teamsを使ったグループディスカッション (自己紹介) の方法(word)
 - Teamsを利用したディスカッションの学生の反応(word)
 - オンライン授業進捗状況報告, 4月29日/30日教授会配布資料5, 教務委員会
 - オリエンテーション時の資料
 - ガイダンス授業 (授業設計指針) (後藤幸功 情報学部教授)
 - オンライン授業実施マニュアルFIX.pptx
 - (参考) 遠隔教育における「授業モデルの変更」(藤本徹 東京大学講師, NIIシンポ資料より)(pdf)
↑「試験に向けて教える」というモデルから「学習ガイド・ペース管理」モデルへの転換が必要ではないか? とのご指摘です。遠隔教育でも対面教育と同様の効果を出すための留意点として参考になります (教務委員会)。
 - 「データダイエット」のお願い (NII「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム実行委員会」の提言, 2020,5,7)
 - **【New!】** Microsoft Teams
 - オンライン授業手引書、クイックガイド集
 - 背景のボカシかた
 - 出席レポートのダウンロード
-
- 遠隔教育環境下での成績評価
 - 開志専門職大学履修・試験・成績評価に関する細則
 - 教務委員会では、期末評価への対応等つき、検討中です。そのための調査票を配布しましたので、ご協力をよろしくお願いいたします

• 著作権に関する注意

◦ 著作権に関する留意事項 (鈴木源吾 情報学部教授)

- ↑ 大学の授業で用いるための著作物の複写、配布は法で認められていますが、ネットでの送信は認められていませんでした。4月28日よりコロナウィルスへの対応措置として、遠隔教育のための送信が今年度に限り認められることとなりましたが、その活用には一定の注意が必要です。ぜひ上記の「留意事項」をご覧ください。(教務委員会)
- また、著作物の利用状況について、後日文科省へ報告する(サンプル調査)ことが求められる可能性があります(文科省通知2文庁333号)。そのため、活用状況について、後日の調査に答えられるよう、記録を残しておく必要があります。

◦ 文部科学省パンフレット(遠隔教育における注意点) (PDF)

- ↑ 著作権にかかる注意事項を文科省がまとめたパンフレットです。

◦ 国大協の著作権注意喚起のページ

- 「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」大学関係者有志が作成された「改正著作権法35条の施行(令和2年4月28日)に関する高等教育関係者向け説明資料」があります。

• 文部科学省関連

◦ 文部科学省コロナウィルス対応情報のサイト

-  【事務連絡】学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ & Aの送付について(5月22日時点) .pdf
- **【重要!】** 大学等における遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について(令和2年5月1日)(PDF:247KB)
 - ↑ 対面授業に代えて遠隔授業を行う場合に遵守すべき重要ポイントがまとめられています。
 - 「遠隔教育においても、対面教育と同様の効果が得られること」を各大学が判断することが重要とされています(教務委員会)
- **【旧版】** 大学等における学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ & Aの送付について(4月21日時点) (PDF:355KB)

• 4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム

◦ シンポジウムホームページ(プログラム、資料等)

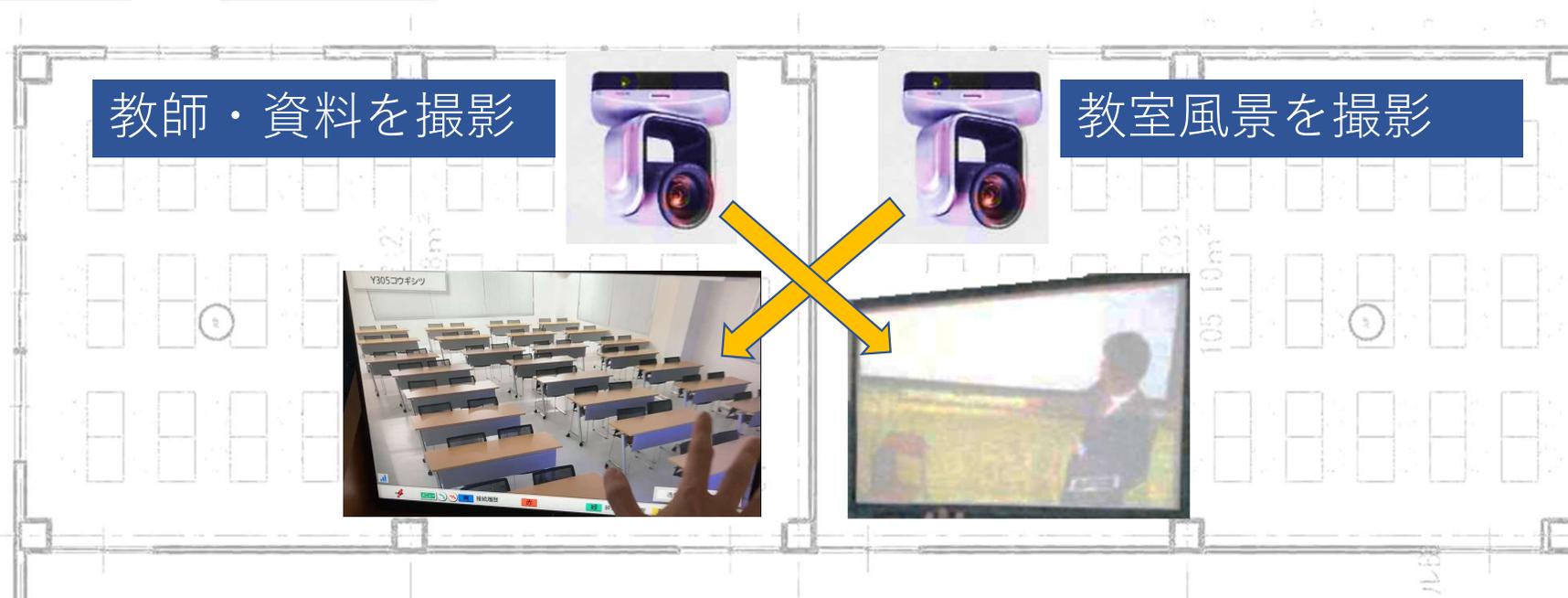
• 政府

◦ 閣議決定(4月7日) (pdf)

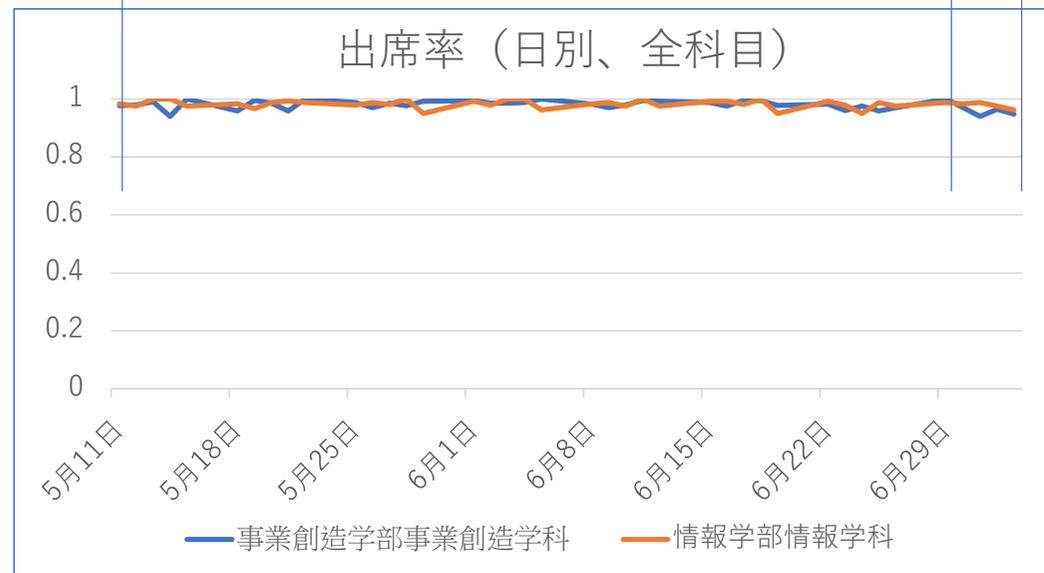
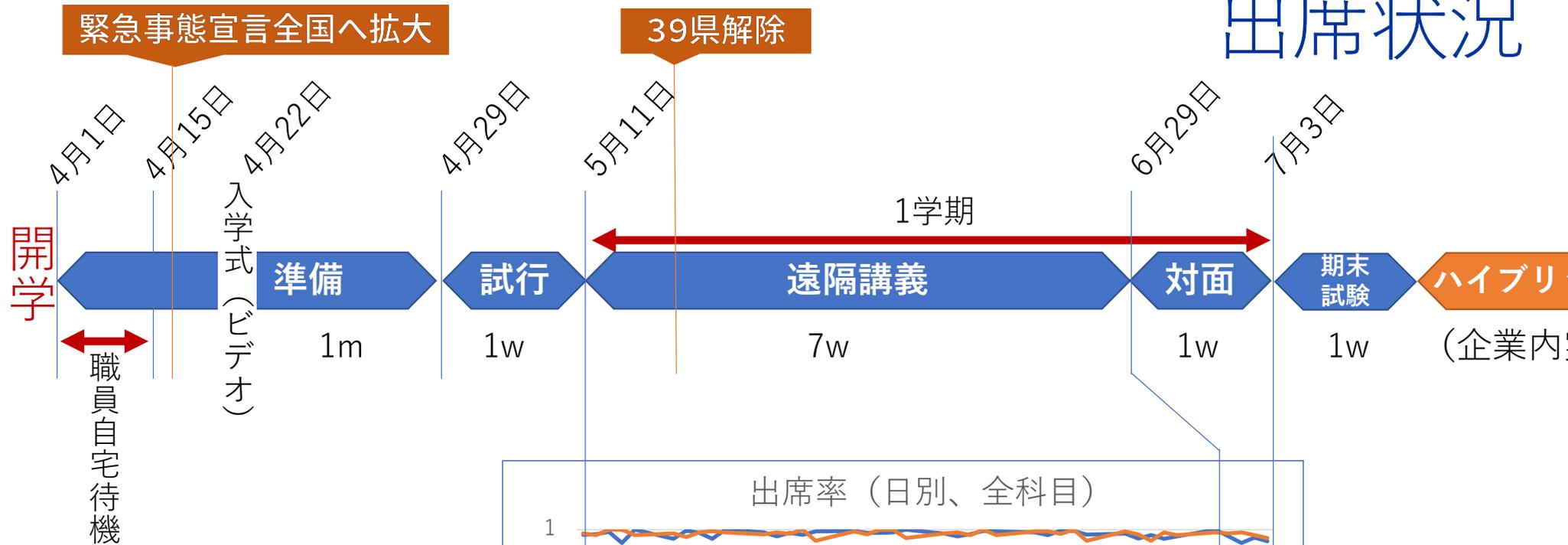
- 教務委員会では、期末評価への対応等つき、検討中です。そのため調査票を配布しましたので、ご協力をよろしくお願いいたします。

対面授業開始後：学生密度を減らす工夫

- 40人クラスを前提とした教室配置が「あだ」
- 一部で2つの教室をビデオリンクし、1クラスの講義を実施
- 授業風景を録画して、欠席学生に提供



出席状況



- ・ 学生には、遠隔会議による頻繁な個別対応を行った
- ・ 個別対応は、対面型よりむしろ、教員・学生双方やりやすいとの声もあった

参加状況の確認

- 1 時限(90分)中 2 回以上のアンケート
 - 通信品質確認
 - > 品質不十分の場合個別フォローアップ
 - 継続的な参加を促す
- 小テスト／小課題の提出
 - 理解度の確認
 - 必要に応じて個別フォローアップ
 - 期末試験を対面で行えなかった場合への対応



「情報の基礎B」出欠確認フォーム その2

「情報の基礎A」出欠確認フォームです。(登録時間とTeamsのIDが記録されます)

秀一さん、このフォームを送信すると、所有者にあなたの名前が

* 必須

1. 授業の声はよく聞こえていますか？ *

よく聞こえている

やや聞きにくい

とても聞きにくい

ほとんど聞き取れない

その他

2. 授業の画面はよく見えますか？ *

よく見える

やや見えにくい

とても見えにくい

ほとんど見えない

その他

3. 聖火リレーでみんなが力を合わせて運んでいるものは、何だと思えますか？ *

火

トーチ

情報

その他

送信

「情報の基礎B」出欠確認フォーム その2

39 応答 00:27 完了するのにかかった平均時間 終了済み 状態

結果の表示 Excelで開く

1. 授業の声はよく聞こえていますか？

回答	回数
よく聞こえている	39
やや聞きにくい	0
とても聞きにくい	0
ほとんど聞き取れない	0
その他	0

2. 授業の画面はよく見えますか？

回答	回数
よく見える	39
やや見えにくい	0
とても見えにくい	0
ほとんど見えない	0
その他	0

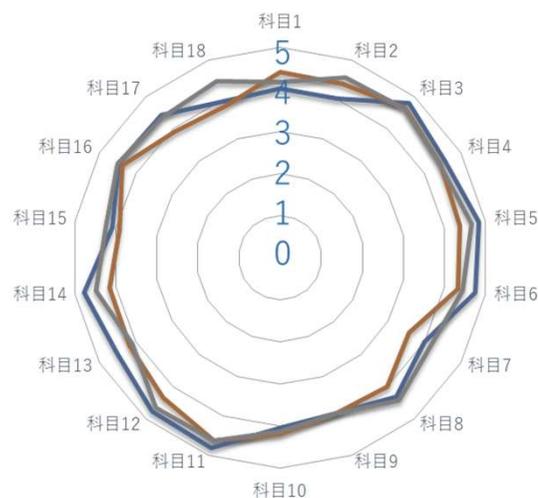
3. 聖火リレーでみんなが力を合わせて運んでいるものは、何だと思えますか？

回答	回数
火	23
トーチ	5
情報	10
その他	1

学生アンケート結果

1学期終了時学生アンケート結果

- 教員の話し方や説明（板書等を含む）は分かりやすかったですか。
- 学習目標をどれくらい達成できたと感じますか。
- 受講前に比べて興味・関心が深まりましたか。



5点	4点	3点	2点	1点
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

● 授業開始前の「試行講義」後のアンケート

- 音声・画像の状況
 - “Teams”の操作がうまくできたか
- 等を調査。
問題のある学生に対して個別に対処した

● 1学期終了時に行ったアンケート

- わかりやすさ、興味・関心などについて概ね良い結果が得られた
- 「達成感」には若干低い傾向が見られた

自由記述欄で、グループディスカッションにより、「他の生徒とのコミュニケーションが取れたこと」の喜びを伝える声が目立った。

オンラインによるグループディスカッション

事業創造学部講師 土岐智賀子

科目名「キャリア・デザインI」

1年生の必修科目（講義・演習）

▶ 授業運営上の課題

議論の進め方に関する技法等の修得や、協同学習を通じた課題への取組みをどのようにして達成させるか



オンラインであってもグループ・ディスカッション
ができる環境を整備する

到達目標

1. キャリア及びキャリアデザインの概念や意義と目的について理解する
2. 議論の目的と進め方や議論をまとめる方法や手法について理解する
3. キャリアデザインに必要な基本的理論を理解する
4. 目標設定や目標管理の意味と種類や方法など目標設定理論について理解する。

グループ・ディスカッションの概要と体制

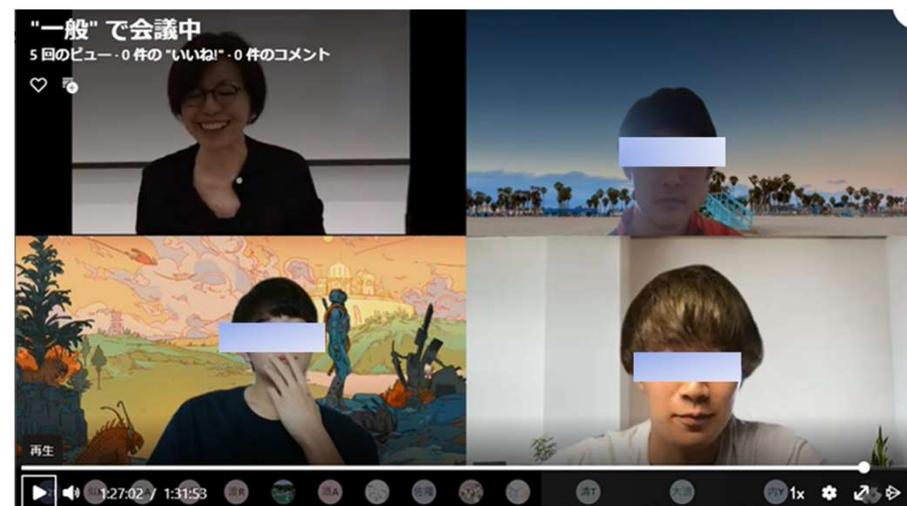
概要

- マイクロソフト社「Teams」上でグループ（10組各4名）に分かれてディスカッションを実施
（「チャンネル」機能の利用）
- ディスカッション終了後に全体に戻り共有



支援体制

- 教職員によるサポート
（1名／慣れるまでは2名のサポート）
- ✓ 对学生：グループの部屋（チャンネル）への誘導
- ✓ 对学生：トラブル（入室できない、声が聞こえない等）に対して随時サポート
- ✓ 对教員：技術サポート（精神的にも大きな支援）



プライバシー保護のため写真の一部に加工を施してあります

オンライン グループ・ディスカッションの結果

- オンラインでも、グループでの議論の進め方や、協同による課題解決の手法を学ばせることができた。
- グループ内での活発な議論が行えた
- 学生の毎回の授業に対する動機付け、授業理解に効果があった
- 全授業を通じた授業に対する満足度の向上が得られた
- 「大学に入学した実感を得た」「早く大学に行きたい」「友人ができた」（学生同士のつながりを作る契機になった）という声
→授業以外への波及効果も大きかった

企業内実習（“臨地実務実習”）

事業創造学部准教授 福田稔

- 産業界に求められる人材への成長を目指す。
- 企業内実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと新規商品開発・販売実習Ⅰ・Ⅱ（計5科目）のべ実習時間660h

今年度は、1年生を対象に、「企業内実習Ⅰ」を実施（必修、10月～12月）

コロナ禍の中で企業に出向く（**臨地**）ことができなくなった。



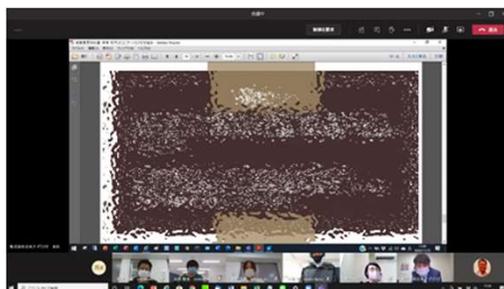
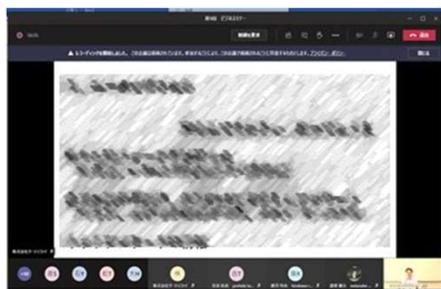
オンラインを交えた実施を決断

【学習目標】

1. 臨地実務実習先の企業における各部署、部門の仕事、業務内容、役割を正しく理解し組織全体の構造、仕組を理解する。
2. 企業活動において必要となるビジネスマナー及び社会人としてのマナーを理解し、実践する。
3. 日常業務におけるコミュニケーションにおいて、聞き手にわかりやすく、また、重要となるポイントを明確かつ正確に伝えるためにわかりやすい表現とは何かを理解する。
4. 価値観の異なる他者と協働し、互いに貢献し合いながらチームとして成果を生み出すことの意義を理解し、実践できる。

実習日 一日の流れ

- 実習先の1企業につき、学生数人がチームを作って対応
- 学内に、企業毎に別の部屋を用意



- 学内で、共通の講義を受ける

- 企業指導者から説明と、課題の提示を受ける

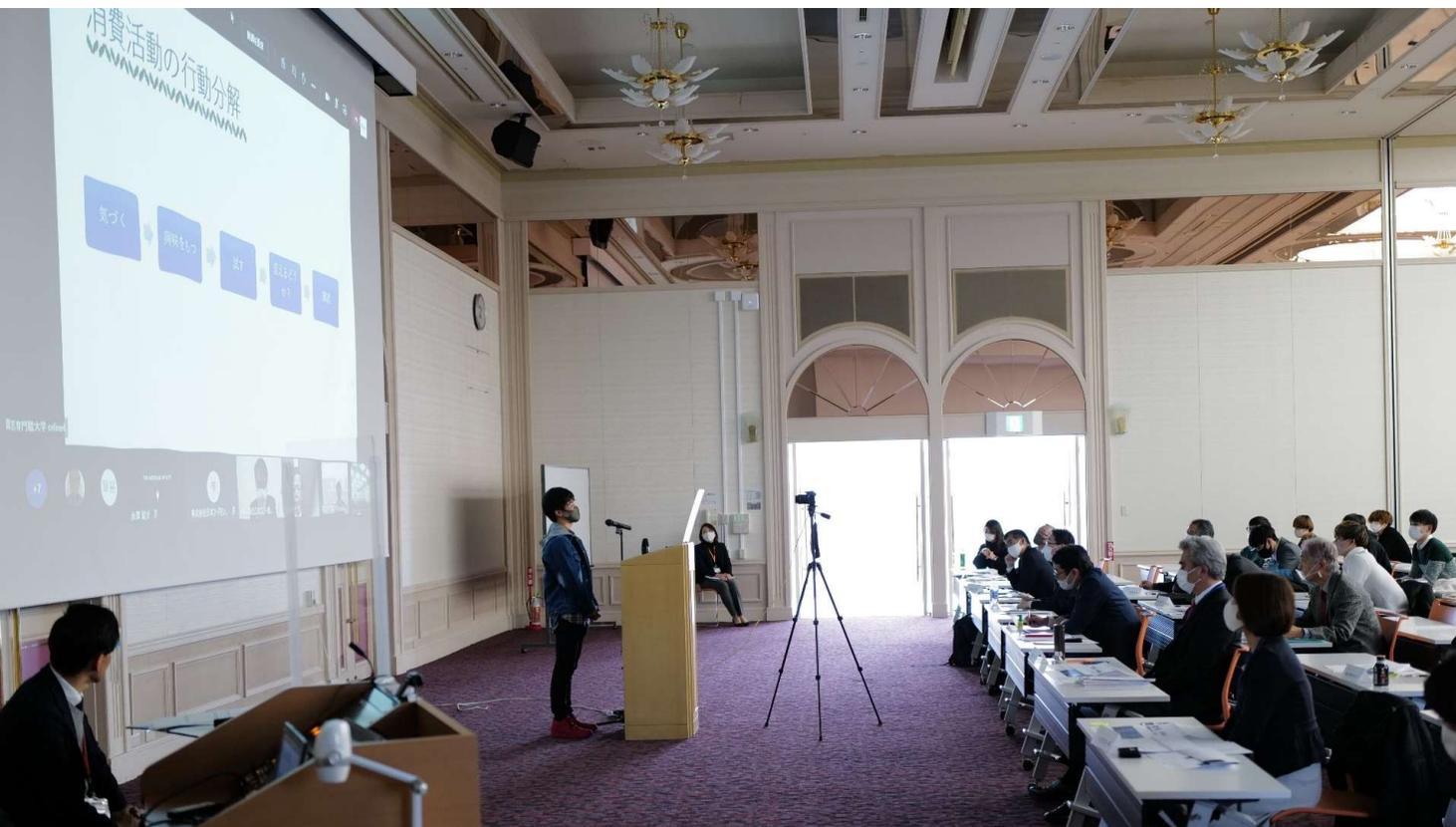
- 個人・チームで検討
- 巡回する教員が指導

- 検討結果について企業指導者とディスカッションする

写真の一部に加工を施してあります

企業内実習成果報告会 ハイブリッド形式で実施 (12月23日)

- 実習に参加した全12チームが集合
- 企業指導者の一部はオンラインで参加



マーケティング、
ホスピタリティ、
ビジネスマナー
など、
実習で学んだこと、
気づいたことを全員
で共有

まとめ

●良かった点

- 「講義のわかりやすさ」等については学生から概ね満足したとの評価を得られた
- 個別指導や相談は、オンラインのほうが良い声が多かった
- 教授会等の会議はむしろ効率よく進めることができた
- 企業内実習において、企業側指導者と密な連携を持てた

●課題

- 学生の非言語的反応や教室の雰囲気を受け止めることは難しかった
- 学生が感じる「達成感」にやや低い傾向が見られた
- 学生間の交流は不可能ではなかったが難しかった
- 自由に意見を交換する、という形態の会議にはオンラインは適さかった
- 少人数であったことが成功理由であるものも多い

遠隔講義改善へ向けた検討

情報学部教授 磯西 徹明

- 学生の反応（挙手、チャット）に教員が気づきやすくする。
 - 会議ソフト(Teams)のAPIと連携し、「信号灯」を点灯
 - 挙手、チャット情報等をモニタ画面にポップアップ
- 飽きの来ない、ダイナミックな絵作り
 - 教員の指差しや表情を教材に重ねる
- カメラ切り替え等操作用UIの改善

